

職場で反戦集会

JC組合からの報告

關争の端緒ともなるべく、六八年十月二一日の国際反戦統一行動日は巨大な闘いとして私たち労働者は階級的歴史的な課題をなげかけてくれた。政治闘争不在のアリナリ組合内部においても、この歴史的な日はけりしてひんしんとして存してはいかなかった。

七〇年年始を目前にした日本帝国主義の、自国内における労働者階級への攻撃は、たとえば八年階級への攻撃は、たとえば六年十二月二十四日の日経連絡会における前田専務理事発言に代表されてゐるが、一つには企業別組合のよひ、二つはその安定と確立であり、また資本の労組丸抱えでもあることばかりをまたない。そのこと

は一日も遅滞なくその運営へ手を貸す事無く、それが原因でオロギーとする IMF・JCD の拡大を組織するという方針ではなくて、無抵抗なものでしかねないに結びあわせた形で私たちの前に現象してきている。い。されに一方では職場における私たちは現象してきており、JCナラ組合における主要な單位の一つである電機労働の動きについて若干ふれてみよう。

電機産業の動向は、労組の対応姿勢も含めて、松下電器産業等に結構的であらわれてきてゐるといえるのではないか。

それは一つには、賃金面における、職務、階階給の導入であり、長期安定賃金に見られる賃金総額の固定化である。この問題に対する労組の対応の仕方は、賃金政策の確立から仕事別賃金（職務給との明確な区別のなし）であり、長期賃金ビジョンの作成等々といふ、資本の意図的な攻撃に対応するため、前記の交渉制の問題と並行した時間外労働の増加、その実現のための三六協定の空洞化であるが、これは週休二日制を採用している。これが攻撃（電機産業の多くの企業）に對する攻撃（電機産業の多くの企業）は週休二日制を採用している。

(前略) 国の主権と安全を侵犯する行動を法に従じての立場を次のよう規定する。
わが全國軍民の勇敢な、粘り強い闘争と名譽を持った勝利にござめた重大な意義を持つ勝利に直面し、米國の進歩的人民を含めた世界人民の強烈な要求もとに、米國政府はベトナム南部人民と南ベトナムのために奮闘する決意である。
ナム民主共和国の領土に対する解放民族戦線は、米国がベトナム爆撃と襲撃の無条件停止を受け入れ、実現せざるを得なくなつた。これは、わが全國人民と全世界のトナム南部を侵略する戦争を停止せしめ、米国が一九五四年のベトナム和平を愛する人民のきわめて大きな勝利である。
しかしながら、米帝国主義はべつなくたすべての保証を実現すべし。
トナム南部の野心を今まで放棄し、トナム南部人民の侵すべからざることない。米帝国主義は依然として民族の名権利を尊重するより米国は、南部人民が外國の干渉のない状況のもとで、南ベトナム解放軍に問題に関するジュネーブ会議を行軍事基地を撤去しなければならないと統けている。米帝国主義は依然として我が国民人に、北部で進めている破壊的な戦争を停止する権利、独立・民主・平和・中立を表現して、祖国の和平統一のため奮闘する決意である。

ベトナム南部問題の 政治的解決に関する声

南ベトナム解放戦線中央委員会

で、現在はベトナムと南越との間で、南ベトナムが主導する連邦共和国が成立しておる。手先のかいらい政権をしっかりつかんで放さうとは、熱愛しているが、独立、自由を解決しなければならない。中庭にせず、ベトナム南部における植民地主義の支配を維持し、さらにわい。こうした願いと決意を表明す。トナム南部で自由選挙を行つた。が国を長期にわたつて分割しようるために、南北ベトナム解放民族戦争は自己の政治綱領に基づいて、南北双方の間で討論と協議を行なつて一致した基礎の上に、ベトナム民主共和国として誕生し、ベトナム南部問題の政治的解決方針を確立する。

主要な狙い手として
ひじがあることもない
なければならない
七〇年闘争の口
月二十一日の闘いの
なかに反戻、反
きおとすべく努力し
その問題を追求し
間がいることを、
いがために小さな
た質的にも量的に
況に十分対応し得
見透すわけにはい
争不在のJRC組合
一闘争のための“

て闘っている人、主的な組織——宣傳化が闘つ労働者、報告しておかず、内部に埋没させ、いわゆる無関心層の増大という意識的怠慢のもとに、労働者本来の任務——社会貢献の担い手——を引きこんできたことに反して、それを打ち破っていく新しい闘いが、いま要求されており、またそのことが可能などと物語ってくれた。これらの読みはまだ少しあなたのものだ。しかし現在闘われている学生運動においては、それと同質の内情をおいたは生産性での闘いをもつた生産性での闘いである。さてさていかひでもある。徒がそれでいても、それが何を意味するか、それは追求が労働者階級を要求するところも、従来のものは本質的に異なった、いわゆる下からの要求として、その集会形態がつくらしくなっている。これが、新しい闘いへの突破口にならうのではないかといふのである。

要 約	れでいる」と考えられる。 また最近とみに闘争となりつつある政治階層流の、反戦青年委員会に関する狭いセクタ的見解にあつた。かくこじま、うはい（このことは説党の大衆組織における「ゲモニー」の貫徹を否定するものではない）も七年闘争の主体たり得る反戦青年委員会の任務を、内部から削除させる結果をうみだしかねないだろし、また労働者本隊への有機的な橋渡し役としての機能も、うしなわざるをえなくなるのではないか。
（電機労働者）	いる大きなエネルギーを前線者や生の参加していない対話であり、それ以上に發展しなかつた。 しかしの闘争で次の点は見逃せないだろい。 ④一〇・一二闘争は單なる日本軍事だけに勝敗の視点をおくのではなく、昨年の羽田・佐世保・黒磯、王子の一連の反戦・反安保闘争の一環として総括しなければならない。當然のことながら昨年からの一連のゲバート闘争なしにはこの日のような大規模な闘争にはありえなかつた。
普通	発言を求めてゐるのである。 「ひとこと私にも是非いわせて
さき	（2）の一連の闘争こそが現在、あらゆる職場で、人民の民主的権

皆に安保を考えさせ

卷之二

が、その闘争のつみあげによ
れば、人ひとは誰が眞の敵であり
誰が眞の味方であるか、徐々にし
りつづかる。これは權力が必死に
なって彈圧すればする程、眞実を
しり、ぬきぬけてくる人はますます
ふえてくることを意味する。
④しかしこれを一層大衆のもの
に、大衆に依拠した闘争に發展さ
せるためには、生産点に基礎をお
いた闘争に発展せねばならない。

の
ベトナム南部に因係ある諸政府が一九六八年十一月二日より発表したベトナム問題に政治的解決を求める声明の中で明らかにし、現在のサイゴン政権は、米侵略を止め、ゆるぎない戦いを堅持する。
ベトナム解放民族戦線は、べた立場を断固支持する。南ベトナム人民の抗米救国戦争は、わが国民の正当願いに背いていわれわれは戦いを繼續して、全部譲り、民主的人びとおよび米国の進歩的人民に対し、南ベトナム解放民族戦線の正しい立場を力強く支持し、連続して攻撃し連続して闘争を繼續するよ
う呼びかける。
ベトナム南部は必ず解放をかちるために貢献しよう。

ベトナム人民の抗米救国事業は必ず勝利する／一九六八年十一月二日
(中国通信)

